

NO. 4

沢のぼり

1 ねらい

七北田川源流の一つであるヒザ川を歩きながら沢水の冷たさや清々しさを感じたり水生生物等を観察したりすることを通して自然に親しむと共に自然環境の大切さを体験する。

2 活動の計画

(1) 活動期間 4月～11月

(2) 所要時間 2時間 **(※注：下記「3 活動上の留意点★」参照)**

(3) グループ編成

少人数でも多人数でもできます。

※ 沢入り口の1番ポイントまでの移動は「登山」に準じ、全体で行動します。

(4) 活動場所 ヒザ川

(5) 準備物

*個人・・・活動に適した服装(長ズボン・長袖・運動靴・帽子・軍手)、地図、持ち物(行動食・水筒・タオル・雨具・防寒具・ザック・着替え)

※持ち物はビニール袋につつんでザックに入れ、沢の水で濡れないようにする。

*団体・・・救急用品一式、携帯電話またはトランシーバー

*自然ふれあい館・・・業務用無線機(自然ふれあい館との連絡用として1台貸し出します)

3 活動上の留意点

・ねらいが達成できるように、コース図を参照し、児童・生徒の心情や能力を考慮して無理のない計画を立ててください。

・**事前に必ず下見をして安全面への確認をしておく**と共に、本文をしっかりと読み行程を理解し沢の歩き方や休憩場所の確認をしておく。

・事故発生の場合を想定して、緊急連絡やその他の処置対応についても準備をして実施してください。

・水の中を歩くため履きなれた運動靴等を履きましょう。必要に応じて自転車用ヘルメット等を着用してください。

(長靴は一旦水が入ると歩きにくくなり、また転倒の危険性が増しますのでご注意ください。)

・落石や側壁の崩落に十分注意すると共に、足元のすべる石などに注意して、できるだけ沢の中の低い所を選んで歩くと安全です。

・水生生物を観察した場合は、生物や石は沢に戻し、ゴミは必ず持ち帰ってください。

(動物愛護・環境保全について徹底を図ってください。)

・けがや体調不良で**歩行不能の場合は、かついだ人間の転倒による二次災害の恐れがあるため絶対にかつがず、無線で自然ふれあい館に連絡してください。また、危険度が増すため沢は下ってはいけません。**

・「沢のぼり」は登山行動の領域に含まれることから、活動事例集の1「泉ヶ岳登山」の留意点も参照してください。

・着替え場所として浴室の脱衣所等があります。ご相談ください。

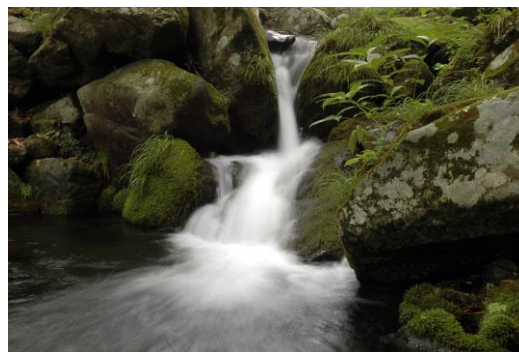
★実際に沢の中(次頁コース図①～⑩)を歩く時間は30～40分程度となるため、沢での活動を半日のプログラムとして計画する場合、水生生物等を観察したり昼食(弁当)を取り入れたりするなど計画の工夫が必要です。(コース図：移動コースはA～B～Cを歩く。)

3 展開例（「沢のぼり」のみの場合）

流れ	活動内容	場所
説明 (15分)	①活動のねらい ②服装, 持ち物確認 ③活動の諸注意 ※トイレを済ませる。	体育館 つどいの広場 その他
活動 (1時間)	①採草地の中腹のイワナ坂から足元に注意して沢①ポイントから沢に入ります。 ②水を避けることはせず, 沢の水の中を歩くようにします。 ③こけなどは滑りやすいので足元に注意します。浮石(不安定な石)を踏むと転倒の恐れがあるので, 一步一步を慎重に歩きます。石と石の間を飛び移ったり, 石を飛び越えたりは絶対にしないこと。落石にも十分注意しながら歩くこと。 ④ <u>歩行中は危険防止のため原則として追い越し禁止です。</u> ⑤ 随時休憩を取ってください。 ※けがをしたり体の具合が悪くなったりした場合は指導者に報告する。 ※個人行動は絶対にとらないこと。	沢コース 沢①ポイント ～①ポイント
まとめ (10分)	①人数確認 ②濡れた靴等の始末をする。 ③感想発表, 反省等	体育館 つどいの広場等



ヒザ川での沢登りの様子



ヒザ川の清流



石の間から顔をのぞかせたハコネサンショウウオ



水生生物の観察

沢のぼりコース地図

